

「医療なくして子育てできず」

一般社団法人 千葉県地方自治研究センター 理事
千葉県議会議員 網中 肇



既に広く知られていることであるが、千葉県は医師や看護師をはじめとする医療資源が全国でもワースト2位・3位に入るなどその環境は大変厳しい状況となっているとともに、子育ての分野においても待機児童数が高止まりするなど大変多くの課題を有している。

急速に進行する少子高齢化、とりわけ千葉県は全国でも2番目のスピードで高齢化が進むことから今後の当該分野における積極的な取組みが不可欠となっていると同時に、安心して子育てをするためにも医療をはじめとした公共サービスの充実が欠かせない。これらの分野において今後、千葉県はどうあるべきか。

このような問題意識を共有する各界のメンバーが結城康博淑徳大学教授のもとに集い、研究会を立ち上げたのが本書執筆の契機である。

それから2年、その結果が「医療なくして子育てできず」という形で結実したのが本書である。

本書の特徴は、医師、看護師、研究者、患者、地方議員といった立場の異なるメンバーによって執筆され、医療・子育ての現場の視点と地方自治政策との論を展開していることである。

また、本書刊行にあたっては、千葉県地方自治研究センター、地方自治総合研究所及び連合千葉議員団会議(日本労働組合総連合会千葉県連合会)による多大な研究助成があったことをここに感謝する次第である。

本書は大きく四部構成から成り立っている。各部について概説すると以下のとおりとなる。

第1部(第1～4章)では、小児科医における医療現場の問題点、病児・病後児保育などといった子育て支援の課題をテーマに各章で論じられている。子育てにおいていかに地域医療資源が不可欠であるかが論証されている。

第2部(第5～8章)では、千葉県や大分県における医療圏の問題を検証し、各圏内における医療資源の需給ギャップなどについて論じられている。また、千葉県銚子市における公立病院(銚子市立総合病院)の休止問題は全国の関心を集め、地域医療崩壊の象徴として論じられたが、その後の同病院の動向について検証している。

第3部(第9～14章)では、医師不足・看護師不足などのマンパワーの問題点について触れ、小児科医をはじめ看護師不足がいかに生じているかを究明している。そして、マンパワーの供給不足問題は、その偏在にも要因が見られ、公正な人的



資源配分の視点が重要であることを明らかにしている。なお、医師・看護師における働き方の問題にも焦点をあて、ワークライフバランスの視点からも論じている。

第4部（第15～19章）では、地方財政の問題と地域医療における「地域」概念について触れている。地域医療の再構築には財政的裏付けが不可欠であり、ここでは政策的な視点を中心に地域医療と少子化対策の政策事案について究明している。

また、各章について概説すると、以下のとおりとなる。

(第一部)

第1章では、「地域医療と少子化対策」を小児医療の現場の視点から実情を交えて考察している。

第2章では、「地域医療としての病児・病後児保育」について、その歴史・意義・今後の課題について、事例を交え論じている。

第3章では、子どもの育ちと小児医療、保育制度と小児医療について、事例を取り上げ検証している。

第4章では、千葉県の周産期医療について諸統計を用いつつ、その現状や今後の課題について論証している。

(第二部)

第5章では、千葉県銚子市における地域医療問題、とりわけ市立総合病院休止問題について詳しく考察している。

第6章では、千葉県の山武・長生・夷隅地域（医療圏）の地域医療の現状と課題について論じている。

第7章では、大分県における地域医療の現状と課題について論じられている。

第8章では、消防の救急隊による救急搬送における問題点や今後の課題について究明している。

(第三部)

第9章では、医師不足、とりわけ小児科を中心とした医師不足の現状と今後の課題について検証している。

第10章では、看護師不足について、全国的な状況及び沖縄県の状況を例を挙げながら、論じている。

第11章では、医師・看護師の現状の勤務実態に触れつつ、ワークライフバランスの実現について論じている。

第12章では、少子化対策と親の役割について論じている。

第13章では、障がい児医療について、その現状、今後の課題及び学校での医療的ケアについて当事者の視点から検証している。

第14章では、患者の視点から、医療格差、教育の大切さ、患者会の重要性について論じている。

(第四部)

第15章では、地域における医療・福祉の新しいシステムとしての「地域包括ケアシステム」について論じている。

第16章では、ヘルスデータを用いて、疾病構造の全国的な傾向及び千葉県の傾向について検証している。

第17章では、「地域」と「福祉」について、その問題点、今後の課題について論じている。

第18章では、地方財政の視点から、地域医療を含む負担と給付のあり方について検討している。

第19章では、少子化対策を視野に入れた地域医療政策について論じている。

このように、本書は、結城教授の監修の下、様々な視点から千葉県における子育て及び地域医療の課題について取り組んだ意欲作となっている、

（なお、本書は頒価1,800円（送料込）で当研究センターがあっせんしています。）